



2011.3.11 東日本大震災

現地支援委員会

ニュースレター

from 東北

「第 16 号」

2015 年 5 月 20 日

全国の諸教会の皆様、日頃から祈りと献金によるお支えをありがとうございます。皆様の祈りとお支えによって、震災から 5 年目となる新年度も各地で支援活動を継続することができています。しかし震災から 5 年目でも、原発事故による放射能問題は未だ解決が見えず、多くの命が危険にさらされたままです。ぜひお祈りください。また、ネパールでの大地震を受け、世界中から支えていただいた東北連合としても、ネパールの痛みにも心を合わせたいと祈り、A P B Aid、BWAid の働きのために献金をお送りしました。主の慰めを祈ります。今号では、岩手県大槌町の現在の支援活動の様子をお届けします。

大槌町小槌仮設住宅支援

「おかえり～。早くご飯食べて。食べて。手を洗いなさいよ。おかわりしなさいね～」小槌第 4 仮設の談話室に行くと、必ず、聞こえてくる仮設のお母さん方の声。いつの間にか「おかえり～」と迎えてくださるようになり、私たちは毎回ここでお昼ご飯をご馳走になります。小槌第 4 仮設 桜の花籠作り



2011 年 8 月から何わせていただくようになり、もうすぐ 5 年目。ここでどれほどお世話になり、愛していただいたことか。西南学院大学や東京女子大学の学生、そして私たちバプテスト連盟の諸教会伝道所から送り出されてきたボランティアの方々はここで、悲しみにくれている方々の涙を拭うために私たちを通して働かれる主に出会ってきました。

大槌町全体は今、巨大な盛り土がいたるところに積まれ、トラックやクレーン車、ダンプカーが迷路のような町を走り抜けて行きます。ここをお訪ねし始めてから、ずっと城山公園の同じ場所から写真を撮り続けてきましたが、昨年の夏以降よりその景色は目を見張るように変化しています。でも、その変わり

ように心がついていかず、なんだか私の心は取り残されていくような思いになっていました。ところが、仮設の方々からも同じような思いを聞きました。「なんかなあ～。置いてけぼりにされたような気持ちなんだあ～。」仮設を出る目処のない方、復興住宅に入居は決まったもののその予定地はいまだに更地。一緒にため息をつくしかありませんでした。

でも、そのような中、嬉しいお姿も見受けられるようになってきました。「朝がくると辛い、目が覚めたらまた、長い長い一日が始まってしまう…」そんな声をお聞きしたので、なんとか今日一日を生きるお手伝いができないものかと、全国から送られてきた毛糸や布をお配りしたところ、かわいいふわふわの鶏や猫のストラップ、ハンカチケース、そして、あったかいお帽子に姿を変えました。お預かりした品々は諸教会や大学のバザーに並ぶようになってきました。その作品の売り上げは、仮設を出る方々のお別れ会で温泉に行く費用になっているとのこと。とっても嬉しくなりました。

また、先日、岩手で震度 5 強の地震があり、あわてて仮設の方に電話を入れたところ「大丈夫。大丈夫。でも、一人暮らしの方々が心細いだろうから、みんなを談話室に集めて今日は一日、お茶っこすっぺ」とのこと。皆さんの募金で倍の大きさに増築した談話室がそのような形で用いられており、あらためて拡充してよかったと主に感謝をいたしました。ここでの生活はもうしばらく続きそう。またお顔を見に行きたい。そんな思いで一杯になる今日この頃です。

(郡山コスモス通り教会 金子千嘉世)



手作り 毛糸の帽子



猫ピンチ



城山公園から見た盛土



復興予想図



小槌第 7 仮設でのストレッチ体操

安渡地区の今

復興庁は、東日本大震災集中復興期間を 2015 年度で終了させ、それ以降は一部地元負担を求める方針を打ち出しました。安渡地区での住宅建築は 16 年度避難施設を含めた公民館建設後となるようです。東北三県それぞれ復興状況は違いますが、仮設から出られない方々の健康が懸念されます。



以前集会所に寄付させていただいたベンチとテーブルのメンテナンス



公民館で、大阪からのオペラグループのコンサートと盛岡教会ボランティアチームとのジョイントカフェ



西南ボランティアチームと一緒に安渡地区に配らせていただいたミニブーケ